

お母さん同士の支え合いで 子どもが育ちやすい街づくり

東京都●NPO法人HUG子どもパートナーズ

子育てがしやすい街はみんなが暮らしやすい街である。子育ての支援を軸にした街づくりをすすめるNPO法人がある。市の「次世代育成支援推進行動計画」づくりへの参画を機に、子育ての当事者である母親たちによって生まれたNPO法人HUG子どもパートナーズだ。その取り組みを紹介する。



のぐちよう子育てひろば ぶくぶくで遊ぶ子どもたちとお母さん

子育てをキーワードにして

わたしたちの住むまちには、歴史や文化などの資源もあれば、さまざまな活動をしているすばらしい人たちがたくさんいます。そんな地域のすてきなパワーがつながりあえば、きっと、もっと楽しいまちになるはず！

子どももおとなも自分らしく生き生き暮らせるコミュニティ、そんな「おいしい地域」をいっしょにつくりませんか？

NPO法人HUG子どもパートナーズ（以下、HUG）のホーム

ページを開くと、冒頭にこんな文章が掲げられている。

HUGの代表・磯部妙さん(46)

は「私たちの法人の目的は、子育てがしやすい街をつくろうということです。子育てがしやすいということとは、子どもはもちろん、お母さんもお父さんも家族も、そしてみんなが暮らしやすいということだと思っています。だから、子育てというキーワードで、自分たちが住む東村山市を暮らしやすい

街にしていこうということなのです」と言う。

法人の名称についてHUGには

「ハグする＝抱きしめる」のほかに「はぐくむ＝育てる」という意味をもたせた。またH=Human（人）、U=Union（結合）、G=Grow（育つ）Group（団体）で、「人が結びあって育つための団体」という意味も含んでいる。

まず親子の居場所づくりから

東村山市は東京都の中央北部、埼玉県に接し、狭山丘陵につながる自然豊かな街である。都心から電車で30分ほどという便利さから、ベッドタウンとなっている。この街でHUGが活動を始めたのは2005年3月。その前年の「東村山市次世代育成支援行動計画（東村山子育てレインボープラン）」づくりに参加した人たちが中心となった。

「行動計画をつくったからと

いつて、行政がすぐに対応できるわけではありません。行政にこういうことをしてほしいと要望するばかりでなく、自分たちが子育てを支援するための担い手になる必要があると感じました。」

さっそく始めたのが「サロン」＝親子の居場所づくりだった。そのきっかけとなったのが市役所の窓口ボランティアである。保育園の申し込みに来る親子の子どもを預かり、親が安心して相談や申請

ができるようにするもので、窓口の前のスペースで約2か月間、朝から夕方までローテーションを組んで活動した。その時に母親たちのニーズがみえてきた。

「お母さんたちは、保育園の入園のことだけでなく、ほかのいろいろな面で困っているのだということとがわかったのです。それで母親たちが集まることができ、相談ができる場所が必要だと思いました」（磯部さん）。

HUGサロンがらと、HUG

サロンはと、ほればれ広場、子育て広場ハトの家。次々にサロンを開設していった。場所は市の施設や地域センターなど公共の施設を使った。ほればれ広場は地域の高齢の女性たちと一緒に老人ホームで開いた。それぞれ週1日から月1〜2回、ボランティアによる開催だった。

「何をどうすれば事業が成り立っていくのかわからないなか

で、とにかくやれることからやってみようということではじめました。いろいろな呼びかけをして、立ち上げられるところから始めていきました。」

2006年10月にNPO法人となり、翌年10月からは東村山市からの受託事業「のぐちよう子育てひろば」を開始した。ひろばの愛称は募集により「ぶくぶく」に決まった。

子育てひろば ぶくぶく

「のぐちよう子育てひろば ぶくぶく」（以下、ぶくぶく）は、東村山駅西口から続く商店街の一角にあり、商店街活性化の思いも込められている。日曜祝祭日を除く毎日、午前10時〜午後4時まで開いている。

「ぶくぶくはもともと私たちがやりたかったことで、ここが今私たちのメインの事業になっていきます。私たちがたっきたらきつとよいも

のができるという思いがありました。それは子育てをしている当事者が関わることで、真のニーズに答えられるという考えがあったからだ。

ぶくぶくの入口横は全面ガラス張りになっていて、道路から室内の様子がよく見える。広くはないが、小さな子どもたちが遊ぶのにちょうどいいスペースだ。毎日10〜15組の親子が訪れ、子どもを遊ばせながら交流をしたり、スタッフに相談したりしている。カフェコーナーもあり、お弁当持参の親子にはランチタイムコーナーになる。

そして、月2回の子育てに関する講座「ママスタデイ」、第2・第4火曜日の0歳児の「ベビーサロン」、第2・第4土曜日の父親参加の「パパサロン」、第3金曜日の手づくりお菓子とお茶を飲みながらの「ぶくぶくカフェ」、そのほか、絵本ひろばなどのメニューがあ

NPO法人HUG子どもパートナーズ	
所在地	東京都東村山市秋津町4-37-28
電話	090-6479-4722
FAX	042-397-1024
ホームページ	http://members3.com.home.ne.jp/hug-partners/
設立年	2006年
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ・のぐちよう子育てひろば ぶくぶく ・HUGサロン…東村山市内数か所 ・2か月の赤ちゃんとお母さんのおしゃべりタイム ・「トコトコ通信」の発行 ・3.11これからプロジェクト

一步一步、夢の実現に向かって

NPO法人HUG子どもパートナーズ代表 磯部 妙さん

「私、「子育て支援」という言葉がすごく嫌いだったんです」と磯部さんは言う。

子育て支援のNPOの代表が何を……と思ったのだが、次の言葉が続いた。

「支援というのは上から目線のような気がして。支援される側になると『私、そんなに支援をされなければならない人なんだ』という気持ちになってしまうじゃないですか」。

しかし、あるとき磯部さんは気がついた。「それは自分がそう思っているからじゃないか。支援する人が上で、される人が下だった。でも、実は支援をしている私も支援されているのですね。だから対等なんだ」と。

また、「『子育て』という言葉にも違和感がありました。もっと街づくりの視点からアピールしたいという気持ちをずっともっていました」とも言う。

そして今、子育て支援と街づくりが合致してHUGの活動となっている。当事者同士の支え合いを、同じ当事者として支えることを基本とする活動である。

「お母さんたちが子育てをしながら働ける会社のようなものをつくりたい。まだ何も具体的なものはないのですが、託児所があって、数時間働いて、その間は別のお母さんたちが子どもをみているというような」。

5年間の活動でようやく見通しがたってきたという。また、東日本大震災から学び、決心したことも多いとも。夢に向かって一步一步前進している。



代表の磯部妙さん

くことは多いのです。子育て中の人たちにしても、何か困った時にはいろいろ言うけれど、選挙には行かない。特に若い世代の投票率があがれば、若い人の意見が施策に反映されるのではないかと思っ

原発の問題などから、今の政治の仕組みの限界も感じます」。思いを具体化
— 一步一步ステップを踏みながら — 「私たちが子育ての当事者ですが、今お母さんたちが抱えている

る問題は、私たちが抱えていた問題とイコールではありません。時代も変わっていますから。そこをくみ取って、施策に活かしたり、実際の支援ができる、そういう街にしていくことが、自分たちの役割だと思っています。そのための

ニーズの把握には、各サロンはとも大事な場所です」。ニーズとは「こうしてほしい」ということだけではない。その人にとって何が必要なのかが重要だ。そのニーズからみえてきたのが発達障害の子どもの問題だ。「発達障害などのお子さんのいる家庭は本当に大変な思いをしておられます。それは子どもの発達だけではなく、お母さんのメンタルの面も重要で、そういう人を目の当たりにしていると何とかしなければと思うのです。そのためネットワークづくりがひとつの課題となっている。」

また、母親が24時間子育てに拘束されるのではなく、いくらからでも社会に関わることができるとしての実現もテーマである。そのためにもっとほかの団体との連携を強め、できることから一歩ずつ歩みをすすめていきたい。HUGの思いは実現に向かっていく。

る。また、特に磯部さんが力を入れている「外遊びサロンのほら」がある。「屋内の居場所はできたのですが、屋外で遊ぶことが少なくなってしまうのが懸念されました。せっかく自然豊かな街なのに家に閉じこもってしまっては子どもがかわいそうです。そこで春と秋のみ週1回、自然公園での外遊びを企画しました。残念ながら原発事故の影響で、今は児童館に行っています」。

支援の柱は当事者が主役になること。ぶくぶくのメニューには参加型が多い。そのなかからお母さんたちのサークルやお父さん同士の交流も生まれている。それはHUGの事業のすべてににえることだ。「当事者が主役になる支援をしたい。何かしてあげますよ」というサービスマスターにはしたくないので。私たちは、当事者が自分たちでつくっていくのをサポートする

「お母さんたちは運営に参加することで社会に参加しているという意識が育っていく。生活に張りが出て、自分も役に立っていると感じられるようになります」。HUGは親を支援することに主眼をおいている。それは子育てする親を支えることが子どもを支えることでもあるからだ。育児不安の解消のための「2か月のママのおしゃべりタイム」5か月のママ

のおしゃべりタイム」などのほか、各種講座も行っている。街をつくるのは自分たち。HUGの活動は、ひろばやサロンなど、子育て中の親子の居場所づくりだけではない。その目的が「子育てしやすい街づくり」であり、そのための活動は重要なポイントである。そのひとつが「子どものために選挙へ行こう!!」である。選挙の前に、候補者に子育てや街づくりに関する懸案事項などのアンケートに答えてもらい、それをHUG発行のミニコミ誌「HUGコミ」に掲載して、関心をもってもらう。また、市議会の傍聴ツアーを行って、どのような審議が行われているかを見てもらおう。そのような活動を通じて選挙への参加を呼びかけるものだ。「政治で街づくりができると思いませんが、政治で決まってい



野外で遊ぶことに力を入れている。パパサロン「北山公園で遊ぼう」



NPO法人HUG子どもパートナーズのミニコミ誌「HUGコミ」

というスタンスで、基本は当事者同士が支え合うこと。それをサポートすることが私たちの役割だと思っています。長年、地域のお母さんたちのグループが発行してきた子育てのミニコミ誌「トコトコ通信」をHUGが引き継いだのを機会に、お母さんたちに印刷・製本作業に参加してもらいながら子どもたちと一緒に過ごすサロンをつくった。そこは居場所であるとともに活動の場でもある。

「お母さんたちは運営に参加することで社会に参加しているという意識が育っていく。生活に張りが出て、自分も役に立っていると感じられるようになります」。HUGは親を支援することに主眼をおいている。それは子育てする親を支えることが子どもを支えることでもあるからだ。育児不安の解消のための「2か月のママのおしゃべりタイム」5か月のママ